

# 第3回 都市マネジメント分科会

## ■ 日時

- 2022年3月8日（火） 15:30～17:00

## ■ アジェンダ

### <第1部>

- 15:30-15:35 本日の流れの説明と前回内容の振り返り（事務局）
- 15:35-15:50 事例集の報告（事務局）
- 15:50-16:20：「富山市版スマートシティと未来共創」（富山市未来戦略室 中村圭勇氏）

### <第2部>

- 16:25-16:30 グループワークの説明
- 16:30-16:40 グループワーク①ご自身の経験と本日の講演を受けて、どのような気づきがあったか？
- 16:40-16:55 グループワーク②民間事業者として市民参画の取組を進める上で、行政に期待することは何か？
- 16:55-17:00 各グループ発表（1グループ1分）、全体まとめ、閉会

※Zoom参加時の表示名を「所属団体名\_氏名」としておいてください。

※グループワークはA～Cの3グループ×4,5名で実施します。

第1部開催中に事務局が第2部のグループワークのアルファベットA～Cを表示名の頭に足すことで、グループ分けをします。（例：「A\_所属団体名\_氏名」）

※第2部参加時、同じ部屋（同一端末）で複数名参加される場合は、チャット機能でその旨ご連絡ください。

※第1部に関する質問は適宜チャット機能で記載ください。

## 都市マネジメント分科会（第2回）の振り返り

---

## 都市マネジメント分科会（第2回）の振り返り

# 都市マネジメント分科会（第2回）では西会津町CDOであり、CODE for AIZUの設立者でもある藤井氏をゲストに、多様な人材との対流の仕方についてディスカッションした。

### 都市マネジメント分科会（第2回）の概要

#### ■ 日時

- 2022年1月18日（火） 14:00～

#### ■ アジェンダ

##### <第1部>

- 14:00-14:05 本日の流れの説明と前回内容の振り返り（事務局）
- 14:05-14:15 松山市「アーバンデザイン・スマートシテスクール」の取組について（事務局）
- 14:15-14:55：「住民主体とスマートシティという道具」（西会津町CDO 藤井 靖史 氏）

##### <第2部>

- 15:00-15:05 グループワークの説明
- 15:05-15:15 グループワーク①ご自身の経験と本日の講演を受けて、どのような気づきがあったか？
- 15:15-15:30 グループワーク②多様な人材が集まって市民参画を実現するために必要なことは何ですか？
- 15:30-15:40 各グループ発表（1グループ1分）、全体まとめ、閉会

### 西会津町CDO藤井様発表資料



## 事例集の報告

---

## 富山市「とやまシティラボプロジェクト」について

---

## とやまシティラボプロジェクト（富山県富山市）

人口：41.3万人

共同決定

市内全域を「ラボ（実験室）」に見立てた、未来共創手法の実践

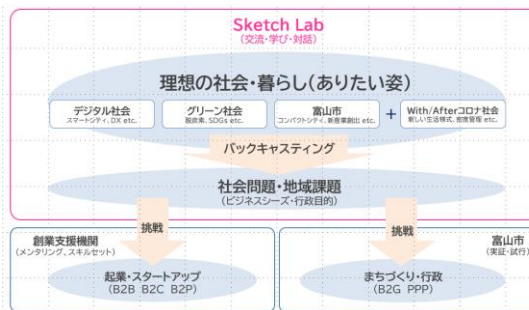
### 概要

- 市域全体を「ラボ＝実験室」とみなし、富山市の産学官民が実証や試行を通じて地域課題の解決を図る「未来共創」を推進するためのプロジェクトとして、2020年度より開始。富山市の産学官民が、立場を越えて対話を重ねることにより、未来のビジョンを共に描き、共有した上で、ビジョンからのバックキャストिंग（未来起点の発想法）で地域課題を明確化するとともに、実証・試行を通じて課題解決に取り組み、新たな価値を創造することを目指す。
- 未来共創の拠点施設として、2020年9月にSketch Labをオープン。コンセプトに沿った様々な未来共創活動（プログラムやプロジェクト）を実施。

### ◆ 取組実施の経緯

- 近年、新型コロナウイルスの流行もあり、市民からの市に対する困りごとが増えていた。そうした課題は市だけで解決することは困難であり、行政は「行政サービスの担い手」から、「プラットフォーム」になるべきという発想から、官民が連携するプラットフォームとして「とやまシティラボ」、その拠点施設としてSketch Labを起ち上げた。
- コンパクトシティ政策における先駆的取組で蓄積したノウハウやエビデンス、居住人口の98.9%をカバーするセンサーネットワークを有する実証環境など、富山市としてすでに有している土壌を活かし、生活空間を実験室（Lab）として、地域課題の解決を目指すこととした。

### ▼ Sketch Labの位置づけ



### ▼ Sketch Labの内観



### ◆ 取組のターゲット層やテーマ

- 「地域課題を明確にできないのは、ありたい姿（ビジョン）が見つからないことが原因ではないか」という仮説のもと、市民が未来のビジョンを共に描き、共有するためのプログラムを多数用意。そこから市民がチームを編成し、地域課題解決に向けた提案やビジネスプラン提案を行う。
- 現在、200名程度がSketch Labの会員として登録しており、会員の特徴として、40代以下が8割強、男性が7割強を占める。

### ▼ Sketch Labで展開されているプログラムの例



## 先端事例

# とやまシティラボプロジェクト（富山県富山市）

### ◆ 運営体制

- 運営体制は右図の通り、市が「未来共創」を推進すべく、拠点施設「Sketch Lab」を整備し、官民連携組織「とやま未来共創チーム」が運営主体として、未来共創活動のプログラムとプロジェクトを企画・実施する。また、「未来共創パートナー」として、当該活動の趣旨に賛同する団体・組織・企業等が、自らのリソース（企画提案、情報、人材、資金等）を提供している。市民は会員や学生研究員として、プログラムやプロジェクトに参加することで、活動に貢献する。

### ◆ 取組に必要な費用とその確保手段

- 富山市による負担金、未来共創パートナーから資金、Sketch Lab会員からの会費を収入源として、Sketch Labの維持管理費、未来共創活動の活動費を賄う。
- Sketch Lab会員の会費は個人会員で月2,000～4,000円、法人会員で月6,000円～24,000円。（個人は利用頻度、法人は利用頻度と利用人数によって変動する。）

### ◆ 取組を経て得られた効果

- 初年度の実績として、地域課題解決提案数が24件、ビジネスプラン提案数が24件あった。ビジネスプラン提案のうち、事業化されたものが2件、起業したものが1件存在する。
- 現存する地域課題は、複雑で単独の主体では解決できない。そのため、多様な主体との共創が不可欠であり、市民がやりたい姿を市民が描き、市民が実現するという流れができています。

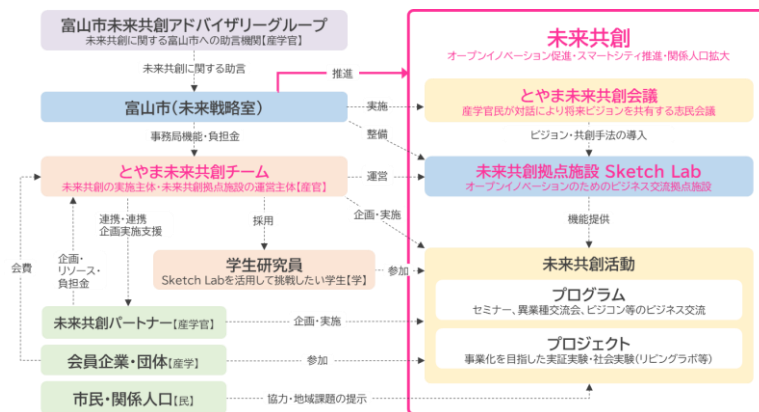
### ◆ 持続可能にするための策

- 市はハード事業の「Sketch Lab」に対して、ソフト事業としての市民参加型共創プログラム「とやま未来共創会議」を開催している。「未来共創」手法を対話によって実現するためには、ファシリテーターの役割が重要。市民との対話やワークショップを開催し続ける理由の1つにファシリテーション人材の育成がある。「とやま未来共創会議」では、参加者のうち希望者を次年度以降の運営事務局のサポートメンバーとして起用することで、ファシリテーション人材として育成している。

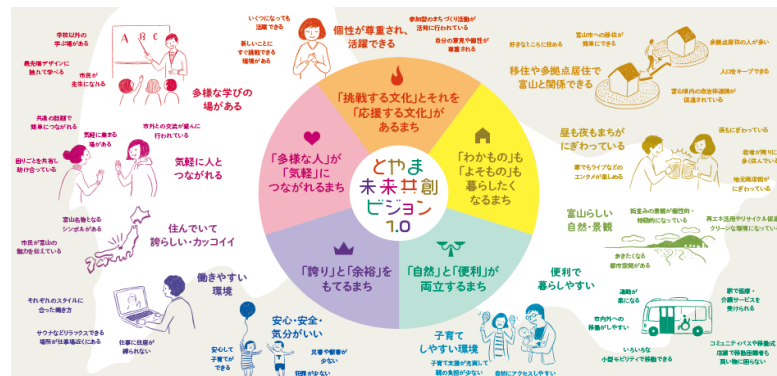
### ◆ 今後に向けた発展方向性と課題

- とやまシティラボプロジェクトを開始して1年半が経過し、まずは意識の高い市民を対象に未来共創を進めてきたが、それ以外のサイレントマジョリティ層や企業の巻き込みが今後の課題。
- コンパクトシティの設計や、センサーネットワーク事業による実証環境の整備など、既存のハードウェアを活かし、Sketch Labを通じて共に地域課題を解決する仲間づくりを今後も積極的に進めていきたい。

### ▼ 運営体制



### ▼ とやま未来共創会議にてつくられた「とやま未来共創ビジョン1.0」



**講演：「富山市版スマートシティと未来共創」  
（富山市未来戦略室 中村圭勇氏）**

---



## 第2部：グループワーク

---

# グループワーク

## ■ ブレックアウトセッションの参加方法

- グループワークはA～Cの3グループ×4～5名で実施します。  
第1部開催中に事務局が第2部のグループワークのアルファベットA～Cを表示名の頭に足すことで、グループ分けをしました。
- この説明の後、所属グループのブレイクアウトルームに皆様を分散させますので、特に何かボタンを押す必要はありません。
- 各グループにはファシリテーター（事務局メンバー）がいますので、ファシリテーターの進行に従い、議論をはじめてください。
- 時間になったら自動的にメインルームに戻るよう設定しております。

## ■ グループワークのテーマ

- 16:25-16:30 グループワークの説明
- 16:30-16:40 グループワーク①ご自身の経験と本日の講演を受けて、どのような気づきがあったか？
- 16:40-16:55 グループワーク②民間事業者として市民参画の取組を進める上で、行政に期待することは何か？
- 16:55-17:00 各グループ発表（1グループ1分）、全体まとめ、閉会

※議論中は画面オン＋ミュート解除の設定をお願いいたします。

※グループワーク①の際、簡単な自己紹介をお願いします。

※ファシリテーターが発言の記録をとり、メインルームに戻った後、まとめのセッションで議論の内容を発表します。

**参加メンバー：省庁1団体、自治体9団体、大学1団体、企業等34団体、合計45団体**

【省庁】国土交通省 【自治体】更別村、さいたま市、中野区、鎌倉市、新潟市、藤枝市、愛知県、岡崎市、和歌山市  
 【大学】東京大学 【企業等】松山アーバンデザインセンター、大村湾データコンソーシアム、福島産業創生協議会、日本PFI・PPP協会、(一財)計量計画研究所、(一社)データ流通推進協議会、森ビル(株)、清水建設(株)、(株)大林組、日本電気(株)、パナソニックシステムソリューションズ ジャパン(株)、富士通(株)、三菱電機(株)、シスコシステムズ(同)、京セラ(株)、(株)デンソー、ミネバアミツミ(株)、KPMGコンサルティング(株)、(株)福山コンサルタント、(株)市浦ハウジング&プランニング、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド、(株)日建設計総合研究所、(株)三菱UFJ銀行、東京海上日動火災保険(株)、NECキャピタルソリューション(株)、住友商事(株)、(株)電通、凸版印刷(株)、scheme verge(株)、大阪ガス(株)、(株)フィリップス・ジャパン、東テック株式会社、ニューラルポケット株式会社、株式会社電通国際情報サービス

**分科会での活動概要**

令和3年度は、市民が主体的に取り組むスマートシティの実現に向け、先進事例を調査することで、スマートシティの主体者が参考となるような市民参画のパターンやTipsを整理し、分科会にて共有・議論した。

活動①：先進事例の共有、ゲストからの発表

活動②：分科会参加者の関心分野を踏まえたテーマ設定によるグループディスカッション

	概要
第1回	令和3年10月29日（金）（WEB会議） ・分科会の趣旨説明、調査事業の説明 ・事例紹介・ゲスト発表（横浜市のリビングラボについて）、グループディスカッション
第2回	令和4年 1月18日（火）（WEB会議） ・事例紹介（松山市アーバンデザインスクール） ・ゲスト発表（西会津町の取り組み）、グループディスカッション
第3回	令和4年 3月 8日（火）（WEB会議） ・市民参画のパターン、Tipsを取り纏めた事例集の紹介 ・事例紹介（とやまシティラボプロジェクト）、グループディスカッション

**分科会の活動成果**

**成果①：国内外の事例研究による知見の拡大**

国際市民参画協会の明示する「市民参加のスペクトラム」を参考に、市民参画方法を5つのカテゴリに区分。カテゴリ別に国内外の先進事例を選出し、それぞれの先進事例についてTipを考察し、図表を交えた事例集を作成した。

**成果②：市民参画の在り方に関する認識の共有**

多様な立場の参加者同士のグループディスカッションを通じて、現状の課題を踏まえたあるべき姿について知見を集約・共有できた。



**今後の課題・展望**

市民参画に焦点をあてた分科会は令和3年度で終了とする。令和4年度は、スマートシティの高度化及び全国横展開に向けて、以下を予定。

・分野毎に、スマートシティモデルプロジェクトの取組・知見を共有する枠組み構築。

・特定の分野（防災・賑わい創出等）における目指すべきスマートシティモデルのガイダンス（サービスや、それに必要なデータセットを具体的に例示）の作成に向けた検討、意見交換。